



## 日本大学通信教育部校友会

兵庫県支部 (平成30年1月号)



校友会の皆様新年おめでとございます。

日頃の活動の支援・配慮に厚くお礼申し上げます。

さて、本年は日大通教70周年、そして来年に日本大学130周年となります。そして平成から新元号となります。大学はより良い学修環境を整備されつつ、学生数は増加しています。

一方校友会は高齢化する役員、新しい会員がなくまた学習指導員もない状況で活動の減少化によりしぼんでいく空気が漂っています。

校友会のみなさんに道や山やを示して、沢山の種をまいてきたかどうか？、を神様に聞いてみました。

ナーお前「日大強いぞ甲子園ボール優勝や！皆それぞれのところで活躍しておるぞ!!」と神はよくご存じである。

改めて皆様のご多幸をお祈りしました。

気軽に、気楽に、気持ちよく、日本大学の集いへ参加下さいますよう宜しくお願いします。

日本大学通信教育部兵庫支部長

前田 忠義

## 近畿ブロック総会報告書10月29日(日)

台風22号接近の中(写真の参加者)姫路キャッスルホテルで16時から開催しました。 関正晴通信教育部長をはじめ鈴木勝枝友会長、各県支部長ら17名でした。 関部長は市谷への校舎の移転や専任講師の充実で毎年500人の入学生の増になり、ポスターも載せている、と挨拶がありました。 鈴木校友会長は各種対応に費用を捻出して校友会に活気を入れると挨拶がありました。 お二人は新任の方々でありスピーチも力のこもった内容でした。 各支部は過去の苦勞と将来への種、オール日大114万人の仲間たちとやっついでこの開催者の挨拶に続き自己紹介をし、総会を

始め引き続き懇親会を開きました。 翌日はホテルバスで国宝姫路城と好古園の散策に出発しました。 案内人には日大人の浜ちゃんこと浜田薫氏にお願いしました。 浜ちゃんの案内は瓦や石垣・城の色々なビュー、国宝の未来を支える職人達まで6時間の語り部には大満足でした。 次回また元気でお会いしようと言いつつ散会。 今回は京都支部の主催です。 多くの参加をお願いします。



## 私のファン気質

林和子

第二十三回近畿プロック総会が平成二十九年十月二十九日に姫路キャッスルホテルで行われた。総会後の懇親会も順調に進んでいた。その時「近畿大会だから六甲おろしを歌おう」と声が上がった。そして近畿プロックのメンバーが全員六甲おろしを歌った。ご存じの通り六甲おろしは阪神球団の応援歌です。

私は若いころ野球のことは全く知らなかったが、野球好きの人が甲子園球場へ連れていってくれた。そこで野球のルールなどを親切に丁寧に教えてくれた。そしてその人が阪神ファンだったので、私もいつの間にかそうなっていた。

阪神は、勝ったり負けたりならいいのだけれど、負けたり負けたり低迷の時期があった。それでもあきらめずに最後まで試合を見て応援を続けていた。ABCラジオの道上洋三さんの甲子園への招待の応募に当選して、主人と二人で甲子園にいったことがあった。その時は阪神が九回の裏でホームランを打ち一対ゼロで勝利した。帰りの電車の中はほとんど阪神ファンだったので、大声で「六甲おろし」を歌っていた。子供たちと行った時も阪神が勝ったので、帰りはその試合のことはかり話していた。

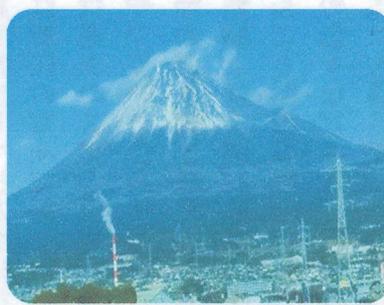
私はつらい時や悲しい時に阪神が勝つと元気になれる。テレビやラジオで聞いたり見たりする時も一生懸命に応援する。

それがいつの間にか、負けてくると胸が苦しくなり、それ以上試合を見ることも聞くこともできなくなってしまう。それでも気

になるので試合の結果は必ずその日のスポーツニュースで確認した。そんな私を「本当の阪神ファンではない」と言われたことがあるが、こんなファンもいるのだなと心に呟いている。

阪神を応援することは、青春時代に還ることである。だから一度もファンを止めようと思ったことはない。今年は絶対日本一になつてください。お願いいたします。金本監督。

(編集後記)



正月早々に東京で一人住まいの姉を訪問しました。体調を崩して困っている様子でした。幸い大事に至らず医院への往診と買い物に付き添う程度で安心して帰ってきました。指導員をしている時は上京時に立ち寄っていたのですが、昨年に退職しそれに行くのもたいそうかな、と思いつつ日を過ごしていたころでした。お釈迦さんの教えではないですが、生老病死は誰にでも訪れるもので避けることは不可能ですが、それまでの人生を精一杯生きたいものです。

来年には天皇が退位され元号が変わります。新しい年に幸多かれと願いつつ新年の部報をお届けします。

塩見